

国際シンポジウム

「世界的柑橘分類学者 田中長三郎の足跡と系譜」

# 柑橘の 起源と分類

—田中長三郎の研究と  
新たな展開—

入場無料

事前申込制

## プログラム

13:00 ~ 13:05 開会の挨拶 富永 達(京都大学大学院農学研究科 附属農場長・教授)

13:05 ~ 16:35 講演

「田中長三郎のカンキツ分類と東アジアの在来カンキツ」 北島 宣(京都大学大学院農学研究科附属農場 教授)

「カンキツ分類研究の新たな展開と田中分類の今日的理解」  
清水 徳朗(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 上席研究員)

「Tanaka's Cyclopedic of Citrus and Books 台湾大学の柑橘標本と田中文庫」  
岳 修平(国立台湾大学農学院生物産業伝播及発展学部 教授)  
林 維真(国立台湾大学文学院図書情報学部 准教授)  
鐘 國芳(台湾国立中央研究院生物多様性研究センター博物館長)

「田中長三郎の交流資料と足跡」 伊藤 謙(大阪大学総合学術博物館 講師)

16:35 ~ 16:40 閉会の挨拶 北島 宣(京都大学大学院農学研究科附属農場 教授)

途中、10分休憩が2回入ります。

日 時 2016年10月9日(日) 13:00 ~ 16:40

会 場 京都大学大学院農学研究科附属農場 本館3階 講義室

対象者 中学生以上

申込方法 住所・氏名・年齢・電話番号・参加希望人数を明記して、下記メールアドレスまでお申し込みください。  
※1通につき、5名様まで申し込み可能。※定員60名(申込受付先着順)

宛先 [farmsimpo@kais.kyoto-u.ac.jp](mailto:farmsimpo@kais.kyoto-u.ac.jp)

件名は、「10/9 国際シンポジウム申込み」でお送りください。

<問合せ先> ☎0774-94-6405 附属農場事務室 担当:竹口

※当シンポジウムの内容は日本学術振興会科学研究費 基盤研究B(海外学術調査)「カンキツの分類と種の起源・伝播の解明—田中標本の解析と人文・社会的調査—」(代表:北島宣)の成果の一部に基づく。

主催:京都大学大学院農学研究科附属農場

協力:国立台湾大学、橘本神社、歴史文化工学会

## ■シンポジウム概要

田中長三郎(1885-1976)は日本が生んだ世界的な柑橘分類学者であり、ミカン科植物、中でも柑橘属の分類研究の世界的権威として知られ、多くの柑橘の学名を命名し、現在、その分類法は世界的に用いられている。さらに、柑橘の起源に関する研究においても世界をリードしており、柑橘属の起源地はインド東北部であることを提唱し、これは現在ほぼ定説となっている。また、ウンシュウミカン発祥の地が鹿児島県長島であることやウンシュウミカンの代表的品種である宮川早生の発表など、柑橘研究のみならず日本の柑橘産業にも多大な貢献を果たした。

田中長三郎は、台北帝国大学農学部、東京農業大学農学部、大阪府立大学農学部等の教授を歴任し、とくに台北帝国大学時代には精力的に柑橘分類の研究に取り組んで柑橘標本を作製すると

ともに、膨大な書籍・資料等を蒐集した。現在、中華民国(台湾)ではその業績は高く評価され、国立台湾大学では図書館内に田中文庫の設立に至っているが、日本で彼の業績を知るものは少ない。

一方、和歌山県は言うまでもなく、柑橘類(ミカン)の全国有数の産地である。実は和歌山・海南市と田中長三郎は縁が深い。橘本神社(海南市)の協力により、橘本神社の宮司を務める前山家が、田中長三郎と終生にわたり深く交流し柑橘産業の発展に尽力してきたこと、田中長三郎を通じ“和歌山が生んだ知の巨人”と称される南方熊楠との交流を重ねていたことが明らかになってきた。

本シンポジウムでは、柑橘の起源と分類に関する田中長三郎の研究とその新たな展開を中心に紹介する。



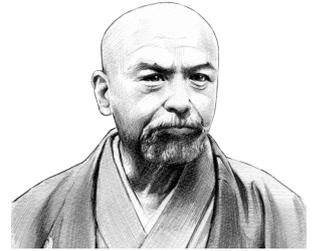
田中 長三郎(1885-1976)



温州ミカン発祥の地  
(鹿児島県長島に立つ石碑)



橘本神社



南方 熊楠(1867-1941)

## ■京都大学大学院農学研究科附属農場へのアクセス

### 公共交通機関でお越しの方

●JR木津駅から東へ1.2km(徒歩20分)です。

JR木津駅まで

- ▶ 京都駅から:約40分(JR奈良線)
- ▶ 大阪駅から:約60分(JR大和路線)
- ▶ 奈良駅から:約 8分(JR関西本線)

### 自家用車でお越しの方

●京奈和自動車道木津I.C.を下りて加茂方面に直進し、「梅美台西」交差点を左へ。木津駅前東線との交差点(5つ目の信号)を右へ(約10分)。  
駐車場あり

